

(2015年9月～2016年7月)

【極東大学のロシア語コース】

私は2015年9月から、ウラジオストク・極東大学の「大学進学準備のためのロシア語課程」という11か月間のコースで学んでいます。極東大学では他に、1か月単位で学べるロシア語コース（通称「ルースカヤシュコーラ」）をはじめ、様々なロシア語プログラムが用意されています。

今年度「準備コース」には150人強が在籍し、うち8割は高校卒業直後の中国人です。加えて既に大学を卒業した人や、社会人経験者もいます。このコースは11か月間の課程で「テルキ1」以上を取得させ、さらに学部に進学した際に必要となる、専攻別の学科の基礎知識と語彙をロシア語で身に付ける事を目標にしています。入学時の学生のロシア語力は、既にテルキ1取得が目前の既習者から、アルファベットから始める初学者までと幅広いです。

「準備コース」は「人文・経済・工学・生命科学」の4分野に分かれ、さらに入学時点のロシア語力に従って10人程度のグループに班分けされます。初めの1か月程度は全グループが「ロシア語」の授業を受け、語学力が高いグループから、人文系は「歴史・文学・社会学」、工学系は「数学・物理」といった、「学科」の授業が徐々に加わります。年明け1月に中間試験、コース終了間際の6月に最終試験があります。この原稿を書いているのが2015年11月中旬なのですが、語学力

の関係から2週間ほど遅れを取っていた私のグループも、ようやく「化学」の授業が加わったところです。

留学生の出身国によっては、ロシアビザの手配がコース開始に間に合わず、遅れて「準備コース」に加わる学生も少なくありません。私のグループにはインドネシア人、コロンビア人が複数いるのですが、彼らは9月下旬にようやくウラジオストクに到着しました。彼らはロシア語の完全初学者ですが、まだ20歳前後と若いこともあり、ぐんぐんとロシア語を身に付けていきます。

私もほぼ初学者レベルからスタートし、9月中旬の2週間程は、専攻混成の最初級グループで学びました。この時は、一部のやる気のない中国人クラスメートの授業態度に非常にストレスを感じていました。授業中に延々と私語して先生に叱られる、遅刻やサボりは日常茶飯事、授業中にお菓子を食べて、先生が「ここは動物園ですか！」と怒る、などなど。経験豊富な先生達は何度も注意するのですが、結局彼らの態度はグループ再編成まで改まりませんでした。「準備コース」は大学進学が大前提ですが、こういった学生は途中でドロップアウトするか、何とか大学学部課程に入っても、卒業して学位取得まで勉強についていけるかは大いに怪しいと思います。実際、学部在学中の日本人の知人によると、語学力不足から学部を途中で止めてルースカヤシュコーラに戻ったり、卒業をあきらめて帰国する学生も少なくないそうです。